

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2020 4 - 5 vol. **61**

絵本作家インタビュー 柴田ケイコ

特集 子どもの本と絵本



しばた 柴田 ケイコ



こころに伝わるお話を
急がず焦らず
ゆつくりと

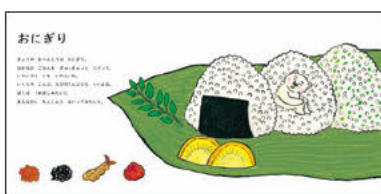
柴田ケイコ(しばたけいこ)プロフィール

1973年、高知県生まれ。奈良芸術短期大学ビジュアルデザインコース卒業。
2002年より広告全般、出版物など、イラストレーターとして高知県で活動中。
2009年、第10回ノート展準大賞。2016年に初の絵本「めがねこ」(手紙社)を出版。2017年、「おいしそうなくま」(PHP研究所)で、第8回リプロ絵本大賞、第27回けんぶち絵本の里大賞アルパカ賞。2018年、「あま〜いしろくま」(PHP研究所)で第28回けんぶち絵本の里大賞びばからす賞。
2児の母。おいしいものが大好き。食卓にならぶ大好きな食べ物は「揚げ出し豆腐」。大好きなおべんとうのおかずは「きんぴらごぼう」。

絵本原画展開催

令和2年4月1日(水)～5月28日(木)

原画展示絵本



「おいしそうなくま」
(PHP研究所)
ぼくは、おいしいものをたべるのが大好き。みんなから「くいしんぼうのしろくま」っていわれてる。すぎきらいは、もちろんないよ。ある日、ぼくはおもったんだ。「たべものの中にはいつてみたら、どんなかんじかな？」想像しただけで、よだれがでちゃう。



春のギャラリーでは、食いしん坊のしろくまが食べ物の中に入っていく妄想を繰り広げる絵本、『おいしそうなしろくま』と『おべんとうしろくま』の2冊をご紹介します。

柴田ケイコ先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

息子の弱視がきっかけです。めがねをとっても嫌がってしまったので、めがねを好きになる絵本はないかなあと思ったのですが、めがねに関する絵本がなくて…。息子と同じ境遇の子どもたちに、めがねってかっこわるいものではないんだよって伝える絵本を作りたいと思いました。それが『めがねこ』(手紙社)です。

画材は何を使っていますか？

オイルパステルとアクリル絵の具、色鉛筆です。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『おいしそうなしろくま』

「めがねこ」(手紙社)を出版する前に別案を2案用意していました。その2案は結局採用されず、そのままにっていました。そんな時、偶然にも別の出版社から「絵本を作りませんか？」とメールが来たので、とりあえず採用されなかったお話を送りしました。その一つが『おいしそうなしろくま』だったんですが、まさか出版されるとは思いませんでした。

『おべんとうしろくま』

しろくまシリーズの第3作目ですが、出版社の方に、おべんとうの案を出していただきました。あとは息子のお弁当によく入れる具材や、普通ではおべんとうにしないような具材など、いろいろ考えました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

「ぼめちゃん」とだつくすちゃん」(白泉社)です。このお話は雑誌の付録絵本だったので締め切りが決まっていた、そこに向けて完成させるのが難しかったです。構想もなかなかスムーズに浮かばず、ラフも10稿ぐらい仕上げました。まだまだ未熟な点が多い自分に苛立ったりもしました。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

とにかく、自分が読んでみて納得のいく楽しいお話、こころに伝わるお話を作ることです。あとは私だけの気持ちが舞い上がっていないか、一方通行になっていないか、客観的な目も備えつつ、バランスを整えることかなと思います。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

特に何かメッセージを伝えるために描いて

いません。子どもたちが見て、聞いて、何かほんの少しこころに届くものがあればそれだけでいいと思います。何かを学んで欲しいというよりも、こころを豊かに、こころが育っていくようになって欲しいかな。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

先程も言ったように、こころに伝わるお話を急がず焦らずゆっくりと作っていきたいと思います。

ご趣味についてお聞かせください。

映画や、読書、少々のランニングです。

好きな言葉をお聞かせください。

いろいろあるので難しいですね。「成るように成る」と「一期一会」です。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

絵本を制作してまだまだ駆け出しの日々ですが、こうして読んでくださっていること、とてもありがたいと思っています。様々な絵本を読んで楽しい毎日を送ってください。



柴田ケイコ先生、ありがとうございました！

柴田ケイコ先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント

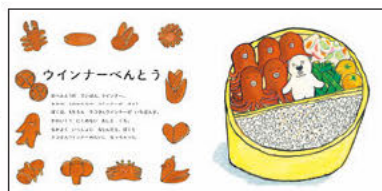


『おべんとうしろくま』
(PHP研究所)

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
柴田ケイコ サイン本プレゼント係
締め切り 令和2年6月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。

『おべんとうしろくま』
(PHP研究所)
ぼくは、おべんとうが大好き。みんなから「おいしいしんぼうのしろくま」っていわれている。大きなおべんとうもペロリとたべちゃうぞ。ある日、ぼくはおもったんだ。「おべんとうのなかにはいつてみたら、どんなかんじかな？」想像しただけで、よだれがでちゃう。



特集 / 子どもの本と絵本



越高 一夫
ちいさいうち書店店長

「絵本」を含む「子どもの本」

絵本美術館や絵本屋さんと呼ばれる絵本を専門に扱うお店ができるなど、絵本の周辺は賑わいを見せている。絵本で町づくりをしている自治体もいくつかあることから考えると、その人気は一時的なものではないようだ。

折しも、国立青少年機構では絵本専門士養成講座をスタートさせ、絵本についてのエキスパートを育成している。私も一期生の講座から「絵本を伝える技術」の講座を担当しているが、そのカリキュラムと内容はすばらしく、また講師陣も多岐に亘っていて、他に類を見ない感がある。そこで学んだ絵本専門士たちが全国で活動していくことで、ますます絵本のファンが増えていくのではないかと期待をしているところだ。

私は、長野県松本市で「子どもの本専門店」を始めて四十年が経つが、ずーっと「絵本」だけでない「子どもの本」というカテゴリーにこだわってきた。なぜなら、子どもの本の世界は、絵本だけでなく、幼年童話や児童文学、ヤングアダルト文学なども含まれるからである。このように多彩なジャンルの本に囲まれて「子どもの本専門店」という空間を作り上げていくことは、とても楽しく、やりがいのある仕事だった。だから「絵本」だけが大きく取り上

げられることには、少し危惧もしている。

確かに絵本は、子どもだけが楽しむものではなく、大人になってからも充分楽しむことができるということには共感するものの、子どもの読書の世界を考えたとき、絵本の次に手に取るであろう幼年童話や児童文学、ヤングアダルト文学にまで世界を広げてもらいたいと願うからである。

そんな願いがずーっとあって「児童文学の現在を読む」という読書会を、店の奥のくつろぎの空間で四十年近く途切れることなく行ってきた。年間で読む作品を参加者で決め、選んだ本のレポートをそれぞれが担当し、毎月第二火曜日の夜七時から会は始まる。

最近の子どもの本には、LGBTの問題を扱ったものや、「難民」をテーマにしたもの、「平和」について考えを深めるものなど、世相を反映したものが多く出版されているのが特徴で、大人が読んでも読みごたえがある。

このように、魅力的な子どもの本の世界を、先ずは子どもたちと一緒に楽しむことができる「子どもの本の専門家」を育成していけるよう働きかけたいと思っているところである。

私のおすすめ絵本

『巨大空港』

鎌田 歩／作
福音館書店



成田空港の一日をさまざまな視点から克明に描いた絵本。

『さとやまさん』

工藤直子／文
今森光彦／写真
アリス館



里山の風景がすてきな文章とともに綴られています。2月に今森さんが来店。

『ちいさいうち』

バージニア・バートン／文と絵
石井桃子／訳
岩波書店



アメリカの古典絵本が昨年の11月に色あざやかに生まれ変わりました。

『日本昔ばなし 「ねずみのよめいり」』

おざわとしお／再和
かないだえつこ／絵
くもん出版



今年の干支のねずみが登場する昔ばなし絵本。

『どんぶらどんぶら 七福神』

みきつきみ／文
柳原良平／絵
こぐま社



世にもめでたい七福神が登場する縁起のいい絵本。

『エジソン ネズミの海底大冒険』

トーマス・エジソン／作
金原瑞人／訳
ブロンズ新社



ネズミの冒険シリーズの最新作。今度は海底に出かけます。